

『一生懸命』幻の新座市議会報告第50弾！



2009年 11月 30日発行

③ 幻

「どうして幻なんですか？」という質問をよくされます。『一生懸命』という幻の学級通信以外にも幻の庭球部通信とか、幻の理科通信とか、幻の歴史プリントとか、幻の英会話プリントとか、中学校時代には色々なものを発行していました。要するに、幻という言葉が好きだったのだと思います。その中で、最終的に毎日続いたのが学級通信でした。小さい頃から、何をやっても三日坊主だった僕が後半の11年間は毎日書いたのですから、学校というところはよほど楽しいところだったのでしょう。そして議員日記を5年以上毎日書いているのですから、議員としての毎日にも意外に充実しているのかも知れません。この幻の議会報告「一生懸命」も50弾！まできました。読んでくださる方がいるから、書くことができました。笑顔で声をかけてくださる方たちがいるから、書き続けられました。これからも市議会で得られる情報を中心にお届けしたいと思っています。

③ 学級通信

当時は土曜日授業があったので、年間の授業日数は244日程度。ですから10年間で2440号は発行してきました。その原動力は子どもたち。毎日がドラマのようでした。泣いたり笑ったり怒ったり・・・当時の学級通信は子どもたちの名前が溢れていました。ゲツゴツをくれたり、黒板に手をつかせてお尻を竹刀で引っぱいたり、逆に僕が引っぱたかれて竹刀が折れるなどは日常茶飯事。理科の時間にお好み焼きを作って怒られたり、子どもたちと一緒に職員室前に正座させられたりもしました。夜プールで泳いで、クラスみんなで警察に怒られたりもしました。金八より面白い、脚本なしのドラマが当時の学校にはあったから書き続けられたのです。

③ 教育週間

「埼玉県では、毎年11月1日を『彩の国教育の日』、11月1日から7日までを『彩の国教育週間』としました。教育週間には、家庭、学校、地域社会の連携のもとに、教育に関する様々な取組を推進します。」埼玉県のホームページを見ると、こうなっています。実際にお隣の朝霞第五中のように1日から7日は全ての授業を保護者や地域の方に公開している学校もあります。しかし、新座市内の小中学校は殆どが3日。しかも、その内の一日は合唱祭のような特別授業のことが多いのですから困りました。実質的には二日しかないのですから、地域の学校を見て回ることは不可能です。しかも、時間割等はホームページでも殆ど公開されていませんから、地域の人たちは目的を持って見学することもできません。僕は数年かけて、市内23校全てを回りましたが、今年のように小中学校が重なって同じ日の公開ということになると、見て回るのは本当に辛い。杉並の和田中学校のよういつでもどうぞ！と自信満々の公開ができるようになって欲しいものです。



右は五中テニス部キャプテンだった篠田安孝（38歳）。高校2年から県のチャンピオンになり、サンプラスとも戦いました。インターハイは勿論、国体、関東学生、インカレ、全日本選手権でも大活躍した選手です。最近、一緒にテニスをしています！！

ホームページ、5年間毎日更新中！ **たかやんの応援団** で **検索** してください

③ 青森

10月31日と11月1日の二日間で僕は息子の亮と青森県の平川市に行ってきました。片道10時間の運転は厳しかったのですが、**どうしても会わなくてはいけない人がいた**のです。写真は僕達がお邪魔した小田桐さん一家です。左からお姉ちゃんの亜衣ちゃん、お父さんの修二さん、お母さんの加代子さん、僕、そして息子の亮です。



13歳

小田桐家には央侑(ひさゆき)君という男の子がいました。**学級委員長で真面目**だった1年生の央侑君(13歳)はお休みの日の午前中に友達と花火遊びをします。そして午後、文化祭の準備の為に教室に入り、ライターを持っているところを先生に見つかります。学校にライターを持ち込んだからと**学年集会で反省の意を述べる**ように言い渡され、文化祭の活動が停止になると**脅され**、親が担任へ電話するよう言われ、**複数の教師に指導を受けた**後、自宅の二階で首を吊ったのです。ライター・学年集会・複数の教師の指導・大会や文化祭の活動停止という脅し。その**全てが13歳で逝ってしまった、陵平と共通**しています。央侑君はソフトテニスでは全国大会に出るほどの腕前で、亡くなった数日後には楽しみにしていた大会があったそうです。陵平もお父さんとバイクに乗る約束を楽しみにしていました。そういうものがありながら死を選ばなければいけなかった13歳の心を思うと胸が苦しくなります。「**指導死**」という言葉が出来るほど、全国で生徒指導が引き金となった子ども達の自殺がなくなりません。**学校が子どもたちの心を殺す場所であってはいけない**のです。12月議会ではこの「指導死」を一般質問で取り上げます。

③ NHK

11月30日(水)21時からの、NHKの「**ニュースウオッチ9**」をご覧になった方も多いと思います。その中でこの「指導死」が取り上げられました。陵平のお父さんの隆志さんがインタビューで**泣きながら**訴えていた言葉が忘れられません。「**もう陵平のような子どもは出て欲しくないし」「私のように何年経っても苦しい思いをする人を増やしたくないし」「私の本当の一番の望みは、陵平が今ここにいることで・・・」「同じ体験をしている人が次々と現れてしまうことが凄く悔しい**」

教師の指導をきっかけにした自殺「指導死」をどうしたらなくせるのか。悲劇を繰り返さないためには**事実を明らかにしていく体制を作ること**がどうしても必要です。9年前の陵平の死を「指導死」という事実として、当時の二中や市教委が認めていたら・・・央侑君は今、生きていたかも知れないのです。子どもたちの「指導死」をこれ以上増やしてはいけません。子どもたちのためにも、親のためにも、そして先生達のためにも。僕らは小田桐家で沢山の笑顔を見ましたが、沢山の涙も見てきました。この笑顔の裏には計り知れないほどの涙が流れ、そしてこれからも流され続けるのです。

たかやんのプロフィール

本名たかむらともや。東京都新宿区生まれ。新宿区立西戸山中学、都立石神井高校を経て北海道大学へ。1977年から教師として五中・六中・二中で21年間を過ごし98年退職。どの政党にも、どの会派にも属せず一人会派「語る会」で、しがらみのない発言をし続けている。新堀・石神「たかやん塾」塾長。障がい者支援団体「よこ糸をつむぐ会」メンバー。「黒目川川づくり懇談会」代表。石神3丁目在住。趣味はテニス。五中・六中の男女硬式テニス部を率いて、県大会は50回以上、関東大会5回、全国大会2回優勝。同時に学級通信「一生懸命」を20年間発行し続ける。議員日記は毎日更新中。
ご感想・ご意見・ご提案をお待ちしています。 たかやん



たかやんの連絡先

自宅 042-456-8869

携帯 090-6497-5737

mail: takayanchan@jcom.home.ne.jp

〒352-0033 新座市石神3-19-32-106